

ウエルシアホールディングス株式会社

2026年2月期 第2四半期決算説明会 質疑応答（要旨）

2025年10月8日

【業績・取組みについて】

Q：粗利率の改善について、事業環境を踏まえると簡単ではなかったと思うが、要因は何か。

A：物販では1Qから継続した取組みとして、販促の見直し、PBの売上高構成比の拡大が寄与している。調剤では薬価改定後の卸との交渉が、想定通りの水準で妥結できたことに加え、薬剤師の育成とともに進めてきた加算獲得に向けた取組みが進展したこと等が、粗利率の改善に寄与した。

Q：販管費について、1Qから計画比での抑制が続いているが想定より削減できているのは人件費か。また、人件費が削減できている要因は何か。

A：販管費の抑制については、販管費の半分を占める人件費の削減が要素として大きい。資料にも記載の通りデジタルツール等を店舗へ導入し、作業の効率化を採用抑制と合わせて進めている事で削減できている。

Q：生産性向上施策について、資料に業務用スマホ等の取組みが記載されていたが、まだ導入したばかりで伸びしろがあるのか。また、自動発注はこれまでもカテゴリーを増やすなど取組みはあったが、さらに改善ができているのか。

さらに統合後においては、この効果が出ている生産性向上施策は、ツルハHD側にも導入し生産性を上げていくことは可能なのか。

A：業務用スマホ等のデジタルツールは、今期全店へ配置して運用を開始している。

今後についても、現状別の端末で実施している発注業務をスマホに統合していくこと等、作業の効率化を進めていきたい。また、自動発注については数年前から取組みを進めてきたが、現在もシステムのアップデートや精度向上の取組み等を実施している。

そして、ツルハHDとの統合後については、両社で店舗運営の違い等はあるが、相互シナジ一の観点ではこれらの施策などで協力できる部分はあると考えている。

Q：ウエルシアとして、目指すべき利益率の水準は。

A：前期中間決算時に、「ウエルシア2.0」という新たな経営方針を出しており、その中でこれまでの規模の拡大から収益性への転換を掲げ、経常利益率5%を目指すべき水準としている。当然これから先は、ウエルシア単独ではなくツルハHDとの統合によるシナジ一の要素もある。今期中間決算では、前期比120%の利益改善があるが、過去から比べれば低い水準と認識しており、今後もウエルシアとして、粗利率の改善とコストコントロールを進め、利益水準を上げていきたいと考えている。

Q：消費者の節約志向について、こういった影響がでているのか。また、こういった対策を実施しているのか。

A：節約志向は買上げ点数の減少に表れており、お客様も過去に比べて必要なものだけを買うようになってきていると感じている。また当社としては、物価高の影響により一品単価が上昇している中で、一品単価を上げ過ぎないようにという事も買上げ点数対策と共に議論している。具体的な対応としては、トップバリュ等のPBの取扱いを増やすことで価格のバランスを保っている。加えてNB商品についても価格競争がある中で、高く売りすぎないという事も重要と考えている。

Q：店舗改装が計画に対して遅れている理由は。また、ウエルシアの課題と今後の考えは。

A：改装の遅れについては、当初の準備不足が主な要因と考えている。すでにその問題は解消できているため、今期予定していた改装は下期に進めていく。ウエルシアではこれまで、地域による事業環境の違いがあっても、基本的に決まったフォーマット通りの改装や出店などを進めていた。今後は、より地域に適した店舗フォーマットが必要とされている中で、いかにニーズに合った改装や出店をしていく事ができるかが重要となる。

Q：現状のWAON提示率はどの程度か。また、下期から新たに開始するデジタル販促（One To One 販促）についての進捗は。

A：上期終わった時点で、WAON提示率は60%程と変化がない。会員登録の方法をウエルシアアプリへ移行し、一部のスマホが苦手なお客様等の新規登録者が減少していることも一因と考えている。対策として、10月からは別の登録方法も導入しており、今後は会員数の上昇とともに提示率も伸ばしていきたい。

また、デジタル販促については、9月からアプリを通じて新たにクーポンなどお得情報の配信を始めている。結果はまだ見えていないが、毎月多くの企画を実施していく中で、効果検証し精度を上げていきたい。

Q：統合を見据えて、下期以降の戦略として出退店、PB、ドラッグ&フードなどの変更はあるのか。

A：例えば、統合後の新PBの開発など変わる部分はあるが、基本的に「ウエルシア2.0」で掲げたウエルシアとしての戦略と取組みは変えない。

【ツルハ HD との経営統合について】

Q： ツルハ HD との分科会を通しての進捗について、今見えてきていることでアップデートはあるか。また、統合後 3 年間で、2 社でのシナジー400 億が発現するタイミングは。

A：分科会は順調に進んでいると認識している。ただ、この段階で発表できるものはないため、12 月の統合以降に改めて発表させていただきたい。シナジーの創出のタイミングとしては、一番大きな商品調達に係る取引先との交渉が 12 月以降となるが、来期のスタートには間に合うよう、現在分科会での対応を進めている。

以上